(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第3818325号

(P3818325)

(45)発行日　平成18年9月6日(2006.9.6)　(24)登録日　平成18年6月23日(2006.6.23)

(51)Int.Cl.		F I		
B42D 15/02	(2006.01)	B42D	15/02	501B
B42D 15/08	(2006.01)	B42D	15/08	D
B65D 27/00	(2006.01)	B65D	27/00	C

請求項の数 4　(全 15 頁)

(21)出願番号　特願平8-99090
(22)出願日　平成8年3月28日(1996.3.28)
(65)公開番号　特開平9-263076
(43)公開日　平成9年10月7日(1997.10.7)
審査請求日　平成14年1月11日(2002.1.11)

(73)特許権者　000110217
トッパン・フォームズ株式会社
東京都港区東新橋一丁目７番３号
(74)代理人　100077986
弁理士　千葉　太一
(72)発明者　鈴木　進
東京都青梅市河辺町６－２３－４－４０７

審査官　荒井　隆一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】情報所持体の作成方法

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の少なくとも一方には折り用ミシン目と反対側にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、左紙片または右紙片の重ね合わせ面の折り用ミシン目とは反対側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべき中紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目でジグザグに折り重ね、さらに、マージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤塗布部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする情報所持体の作成方法。

【請求項２】

左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設

けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の一方にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、マージナル部を設けた左紙片または右紙片におけるマージナル部を設けていない右紙片または左紙片と重なり合うべき重ね合わせ面のマージナル部側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべきマージナル部を設けていない右紙片または左紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、マージナル部を設けていない右紙片または左紙片の一側端で強接着されない重ね合わせ面を折り重ねた後、この右紙片または左紙片に、マージナル部を設けた左紙片または右紙片の一側端で強接着される面を折り重ね、さらに、マージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする情報所持体の作成方法。

【請求項３】

左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の一方にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、マージナル部を設けていない左紙片または右紙片における中紙片と重なり合うべき重ね合わせ面の折り用ミシン目とは反対側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべき中紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、前記強接着可能な接着剤を設けた面が重なり合うようにマージナル部を設けていない左紙片または右紙片を折り重ねた後、これら左紙片または右紙片に、マージナル部を設けた右紙片または左紙片を折り重ね、さらに、必要に応じてマージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする情報所持体の作成方法。

【請求項４】

左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の一方にはマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、マージナル部を設けた左紙片または右紙片におけるマージナル部を設けていない右紙片または左紙片と重なり合うべき重ね合わせ面の折り用ミシン目に沿った側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべきマージナル部を設けていない右紙片または左紙片の折り用ミシン目とは反対側の側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、一側端で強接着されない重ね合わせ面が重なり合うようにマージナル部を設けていない左紙片または右紙片を折り重ね、これら左紙片または右紙片に、マージナル部を設けた右紙片または左紙片の一側端で強接着される重ね合わせ面を折り重ね、さらに、必要に応じてマージナル部を切断除去した

後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする情報所持体の作成方法。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】

本発明は、各種情報を表示して隠蔽状態で通知する、葉書、各種カード等の情報所持体を作成するための方法に関し、特に、左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、少なくとも一側端にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法に関する。

【０００２】

【従来の技術】

従来から、三紙片をジグザグに折り重ね、あるいは中紙片に対して他の二紙片を順次折り重ね、各重ね合わせ面を、感圧性接着剤や熱圧着する接着剤のような、圧を加えて接着する接着剤で接着し、葉書、各種カード等の情報所持体を作成することは知られている。そして、従来の重ね合わせ接着用紙には、二つ形成される重ね合わせ面を、一方のみ剥離可能に接着する構成と、双方を剥離可能に接着する構成とがある。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

従来の重ね合わせ接着用紙では、二つ形成される重ね合わせ面の一方のみを剥離可能に接着する構成の場合は、重ね合わせ面を剥離すると冊子状に見開くことができて通知情報を見やすいという利点があるが、隠蔽状態で通知する情報の表示領域が二面だけなので、情報量が少ないという不都合がある。また、二つ形成される重ね合わせ面の双方を剥離可能に接着する構成の場合は、隠蔽状態で通知できる情報の表示領域は四面になるので、充分な情報量を確保できる利点があるが、各重ね合わせ面を剥離すると、当初の重ね合わせ接着用紙と同じ一枚のシートになってしまい、通知情報を見にくいという不都合がある。本発明は従来の利点は維持しつつ、その不都合を解消した情報所持体を作成する方法を提供することを目的とする。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

上述した目的を達成するために、本発明の請求項１に記載した冊子状となる情報所持体を作成する方法は、左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の少なくとも一方には折り用ミシン目と反対側にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、左紙片または右紙片の重ね合わせ面の折り用ミシン目とは反対側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべき中紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目でジグザグに折り重ね、さらに、マージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤塗布部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう

施すことを特徴とするものである。

【０００５】

なお、本明細書でいう強接着とは、接着面の剥離は困難で、容易には剥離できないように接着することをいい、所定以上の剥離力によれば接着面を損傷せずに剥離し得る場合と、接着面を損傷しなければ剥離できない場合との、両方を含む概念として使用する。

【０００６】

また、本発明の請求項２に記載した冊子状となる情報所持体を作成する方法は、左紙片、中紙片、右紙片の重ね合わせ用の紙片が折り用ミシン目を介して連接し、三紙片の各重ね合わせ対向面の少なくとも一面側には圧を加えて接着する剥離可能な接着剤を設けるとともに、各重ね合わせ面及び各表出面の適宜部分には適宜な情報を表示し、左紙片または右紙片の一方にマージナル部を設けてなる重ね合わせ接着用紙を、切り取り部を介して多数連接してなる連続用紙から、三紙片の重ね合わせ面を剥離後に冊子状となる情報所持体を作成する方法であって、前記連続用紙を連続方向に移送しながら、マージナル部を設けた左紙片または右紙片におけるマージナル部を設けていない右紙片または左紙片と重なり合うべき重ね合わせ面のマージナル部側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべきマージナル部を設けていない右紙片または左紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、マージナル部を設けていない右紙片または左紙片の一側端で強接着されない重ね合わせ面を折り重ねた後、この右紙片または左紙片に、マージナル部を設けた左紙片または右紙片の一側端で強接着される面を折り重ね、さらに、マージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする。

【０００７】

さらに、本発明の請求項３に記載した冊子状となる情報所持体を作成する方法は、請求項２に記載された連続用紙を連続方向に移送しながら、マージナル部を設けていない左紙片または右紙片における中紙片と重なり合うべき重ね合わせ面の折り用ミシン目とは反対側の側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべき中紙片の折り用ミシン目に沿った側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、前記強接着可能な接着剤を設けた面が重なり合うようにマージナル部を設けていない左紙片または右紙片を折り重ねた後、これら左紙片または右紙片に、マージナル部を設けた右紙片または左紙片を折り重ね、さらに、必要に応じてマージナル部を切断除去した後、各切り取り部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、対接する重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とするものである。

【０００８】

またさらに、本発明の請求項４に記載した冊子状となるの情報所持体を作成する方法は、請求項２に記載された連続用紙を連続定方向に移送しながら、マージナル部を設けた左紙片または右紙片におけるマージナル部を設けていない右紙片または左紙片と重なり合うべき重ね合わせ面の折り用ミシン目に沿った側端部、あるいは、この側端部と重なり合うべきマージナル部を設けていない右紙片または左紙片の折り用ミシン目とは反対側の側端部、の少なくとも一方の側端部に、強接着可能な接着剤を設け、次いで、前記三紙片を前記各折り用ミシン目で、前記中紙片に対して、一側端で強接着されない重ね合わせ面が重なり合うようにマージナル部を設けていない左紙片または右紙片を折り重ね、これら左紙片または右紙片に、マージナル部を設けた右紙片または左紙片の一側端で強接着される重ね合わせ面を折り重ね、さらに、必要に応じてマージナル部を切断除去した後、各切り取り

部で切断して単片状にする切断工程と、加圧部材により所定圧を付与して、重ね合わせ面を剥離可能に接着する接着工程と、前記強接着可能な接着剤設置部分に沿った折り用ミシン目とは異なる折り用ミシン目の内側に沿ってスリットするスリット工程との三工程を、少なくともスリット工程が接着工程の後になるよう施すことを特徴とする。

【０００９】

【発明の実施形態】

以下、本発明を領収証を備えた口座振替通知葉書を作成する場合の好適な実施形態について、添付図面に基づき詳細に説明する。ここにおいて、図１～図６は第１の実施形態を示し、図１は作成装置の概略的な側面図、図２は連続状態にある葉書用紙の表面側の概略的な平面図、図３は同じく裏面側の概略的な平面図、図４は重ね合わせ状態の概略的な断面図、図５は作成した口座振替通知葉書の宛名面側の概略的な斜視図、図６は重ね合わせ面を剥離した口座振替通知葉書の概略的な斜視図、図７は第２の実施形態を示す重ね合わせ状態の概略的な断面図、図８及び図９は第３の実施形態を示し、図８は重ね合わせ状態の概略的な断面図、図９は作成した口座振替通知葉書の宛名面側の概略的な斜視図、図１０は第４の実施形態を示す重ね合わせ状態の概略的な断面図である。

【００１０】

まず、図１～図６に基づき本発明の第１の実施形態であるジグザグに折り重ねて口座振替通知葉書を作成する方法について説明する。はじめに、口座振替通知葉書とするための口座振替通知葉書用紙について説明する。図２及び図３に示すように、口座振替通知葉書３１（図５参照）を作成するための口座振替通知葉書用紙１は、折り用ミシン目２，３を境として、幅方向が葉書大より小さい左紙片４と、幅方向が葉書大よりも若干大きい中紙片５及び右紙片６を連接してなる。また、前記右紙片６の前記折り用ミシン目３とは反対側の側端部には切り用ミシン目７を境にして等間隔に移送孔８を穿設したマージナル部９を設けている。そして、この口座振替通知葉書用紙１は、単位用紙１０がマージナル部９の延びる方向に切り用ミシン目１１を介して多数連接された連続状態にある。

【００１１】

図４で理解できるように、口座振替通知葉書用紙１の表裏面（なお、本明細書では、マージナル部９が右側に位置した状態を表面側、左側に位置した状態を裏面側という）には、全面的に、通常では接着せず所定の圧を加えると接着可能となり、接着後に剥離可能で、印字あるいは印刷が可能な感圧性接着剤１２を塗布している。この感圧性接着剤１２としては、印字、印刷が可能であり、感圧性で一旦接着すると再剥離不能な非剥離性の接着剤基剤に、この接着剤基剤に対して非親和性を示す微粒状充てん剤を配合してなるものが好適である。

【００１２】

前記接着剤基剤としては、従来用いられている通常の感圧性接着剤でよいが、特に挙げれば、天然ゴムにスチレンとメタクリル酸メチルとをグラフト共重合させて得られた天然ゴムラテックスが、耐ブロッキング性、耐熱性、耐摩耗性等の点で好適である。

【００１３】

一方、微粒状充てん剤としては、接着剤基剤との親和力が小さいもの、例えば、酸化亜鉛、酸化チタン、炭酸カルシウム、カオリン、活性白土、球状アルミナ、小麦デンプン、シリカ、ガラス粉末、シラスバルーン等が用いられる。これらの材料は、単独でも、複数組み合わせてもよいが、特に、シリカと他の適宜な充てん剤との組み合わせが好適である。また、粒径の異なる２種類以上を組み合わせると、接着剤塗布面を凹凸状に形成しやすいので、剥離性能が向上する。シリカを添加すると、接着剤の塗膜を強化しうるとともに、その多孔質性により、接着剤が表面に付着しやすいので、接着力や剥離力を調整しやすいという利点がある。また、シリコーンオイルを用いているプリンタで、ノンインパクトプリンタ方式で印字した場合でも、シリカがシリコーンオイルを吸収するので、接着剤がシリコーンオイルにより接着しなくなることもない。

【００１４】

上述した微粒状充てん剤の配合割合によって、感圧性接着剤１２による接着面の剥離強度

を調整する。また、微粒状充てん剤の配合割合による調整に加えて、感圧性接着剤１２を網点状に塗布したり、塗布厚を調整したり、あるいは地紋印刷を施して調整を行うと、剥離強度の調整はより容易となる。感圧性接着剤１２の具体例としては、天然ゴム１００重量部に対し、スチレン２重量部とメタクリル酸１０重量部とをグラフト共重合させて得られた天然ゴムラテックスに、テルペン樹脂系粘着付与剤５重量部に対し、平均粒径５μｍのシリカゲル２０重量部を添加したものを加えてなるものが好適である。

【００１５】

そして、図２に示すように、左紙片４の表面側は宛名情報１３をあらかじめ印字した折り重ねた時の表出面であり、中紙片５と右紙片６の表面側は互いに折り重ねられる重ね合わせ面で、各種の案内情報１４，１５をあらかじめ印刷している。また、前記左紙片４の表面側には、剥離端となる折り用ミシン目２とは反対側端部に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示１６をあらかじめ印刷している。

【００１６】

一方、図３に示すように、右紙片６の裏面側は差出人情報１７をあらかじめ印刷した折り重ねた時の表出面である。また、左紙片４と中紙片５の裏面側は互いに折り重ねられる重ね合わせ面で、左紙片４の重ね合わせ面には次回口座振替の通知情報１８をあらかじめ印字し、中紙片５の重ね合わせ面は領収証となって、口座振替日及び領収金額からなる領収情報１９をあらかじめ印字している。前記中紙片５が葉書本体となるもので、その裏面側の折り用ミシン目３に沿った端部には「郵便はがき」という葉書表示２０をあらかじめ印刷するとともに、剥離端となる前記折り用ミシン目３端部側に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示２１をあらかじめ印刷している。

【００１７】

次に、上述のように構成した連続状態にある口座振替通知葉書用紙１から図５に示す口座振替通知葉書３１を作成する方法を、図１に基づいて説明する。まず、口座振替通知葉書用紙１をトラクタ装置２６によって連続方向に移送しながら、折り装置２２でジグザグ状に三つ折りする際、圧を加えて接着する強接着可能な感圧性接着剤２３をノズル２４から噴射し、右紙片６表面側における切り用ミシン目７側の側端部のＡ１部分に、線状に塗布する。なお、このＡ１部分と重なり合うべき中紙片５の表面側の折り用ミシン目２に沿った側端部のＡ２部分に感圧性接着剤２３を塗布してもよい。この強接着可能な感圧性接着剤２３として、本実施形態では、一旦接着すると接着面を損傷しなければ剥離不能な感圧性接着剤を使用する。そして、ノズル２４の感圧性接着剤２３噴射動作は、エンコーダ２５からの用紙送り量検出信号に基づいて制御し、各切り用ミシン目１１にかからないように行う。

【００１８】

折り装置２２による折り重ねは、各重ね合わせ面が対接するように、口座振替通知葉書用紙１を各折り用ミシン目２，３でジグザグに三つ折りし、図４に示すように、宛名情報１３と差出人情報１７及び葉書表示２０を表出する一方、案内情報１４，１５、通知情報１８、領収情報１９を隠蔽して外部からは視認不能な状態とする。

【００１９】

口座振替通知葉書用紙１の移送は、トラクタ装置２６により移送孔８を利用して、いわゆる片送りで行われるもので、折り重ね動作が終了して不要になった移送孔８を設けたマージナル部９は、スリッタ２７によって、折り用ミシン目２の外側にある切り用ミシン目７（図４に示すＰ２の位置）で切断除去される。

【００２０】

続いて、三つ折りした連続状態にある口座振替通知葉書用紙１を、カット胴２８により各切り用ミシン目１１において切断して単位用紙１０とし、さらに、上下二対の圧着ローラを備えた圧着装置２９により各感圧性接着剤１２，２３の接着条件である所定の圧を付与し、重ね合わせ面を感圧性接着剤２３の塗布部分は接着面を損傷しなければ剥離不能に、他の部分は剥離可能に接着する。

【００２１】
次いで、スリッタ３２により、折り用ミシン目３の内側（図４に示すＰ１の位置）をスリットし、折り用ミシン目３部分を除去する。これによって、図５に示す口座振替通知葉書３１が作成され、口座振替通知葉書３１は順次スタッカ３０に堆積していく。
【００２２】
このようにして作成した図５に示す口座振替通知葉書３１は、一般の葉書と同様に投函可能である。そして、この口座振替通知葉書３１を受領した宛名情報１３として表示された宛名人は、剥離開始端指示表示１６，２１にしたがい、左紙片４と中紙片５及び中紙片５と右紙片６とを順次相対的に引き離すと、これら各紙片４，５，６の重ね合わせ接着面が剥離し、隠蔽されていた各案内情報１４，１５、通知情報１８、領収情報１９が露出して視認可能な状態となる。
【００２３】
この時、図６に示すように、左紙片４と中紙片５の剥離開始端と反対側の側端部は折り用ミシン目で連接し、また、中紙片５と右紙片６の剥離開始端と反対側の側端部は感圧性接着剤２３によって強接着しているので、これら三紙片４，５，６は分離することなく、冊子状に見開くことが可能である。
【００２４】
次に、図７に基づき本発明の第２の実施形態である中紙片に左紙片と右紙片を順次折り重ねて口座振替通知葉書を作成する方法について説明する。はじめに、口座振替通知葉書とするための口座振替通知葉書用紙について説明する。なお、本実施形態で作成する口座振替通知葉書は、左紙片が他の紙片より若干幅が小さい他は上述した第１の実施形態の口座振替通知葉書３１と同一構成である。
【００２５】
図７に示すように、口座振替通知葉書（図示せず）を作成するための口座振替通知葉書用紙４１は、折り用ミシン目４２，４３を境として、Ｑ１，Ｑ２での切断によって葉書大となるよう、ほぼ葉書大に形成された左紙片４４と、幅方向が葉書大よりも若干大きく形成された中紙片４５及び右紙片４６とを連接してなる。また、前記右紙片４６の前記折り用ミシン目４３とは反対側の側端部には、切り用ミシン目４７を境にして等間隔に移送孔４８を穿設したマージナル部４９を設けている。そして、図示してはいないが、この口座振替通知葉書用紙４１は、マージナル部４９の延びる方向に切り用ミシン目を介して多数連接された連続状態にある。
【００２６】
口座振替通知葉書用紙４１の表裏面には、全面的に、通常では接着せず所定の圧を加えると接着可能となり、接着後に剥離可能で、印字あるいは印刷が可能な感圧性接着剤５０を塗布している。この感圧性接着剤５０としては、上述した第１の実施形態で説明した感圧性接着剤１２と同一構成のものを使用することができる。
【００２７】
左紙片４４と中紙片４５の表面側は、互いに折り重ねられる重ね合わせ面で、左紙片４４の重ね合わせ面には各種の案内情報５１をあらかじめ印刷し、中紙片４５の重ね合わせ面は領収証となって、口座振替日及び領収金額からなる領収情報５２をあらかじめ印字している。また、前記中紙片４５の表面側には、剥離端となる折り用ミシン目４２とは反対側端部に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示をあらかじめ印刷している。右紙片４６の表面側は、左紙片４４の裏面側に折り重ねられる重ね合わせ面で、この重ね合わせ面には各種の案内情報５３をあらかじめ印刷している。
【００２８】
一方、中紙片４５の裏面側は宛名情報５４をあらかじめ印字した折り重ねた時の表出面であり、右紙片４６の裏面側は差出人情報５５をあらかじめ印刷した折り重ねた時の表出面である。また、左紙片４４の裏面側は、右紙片４６の表面側に折り重ねられる重ね合わせ面で、この重ね合わせ面には次回口座振替の通知情報５６をあらかじめ印字している。前

記左紙片４４が葉書本体となるもので、その裏面側の上端部には「郵便はがき」という葉書表示（図示せず）をあらかじめ印刷するとともに、剥離端となる前記折り用ミシン目４３端部側に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示（図示せず）をあらかじめ印刷している。前記中紙片４５の前記葉書表示に対応する上端部は切り欠かれ、前記葉書表示は露出している（図９参照）。

【００２９】

次に、上述のように構成した連続状態にある口座振替通知葉書用紙４１から口座振替通知葉書を作成する方法を説明する。本実施形態で使用する作成装置は、図１の作成装置とほぼ同一であり、折り装置２２、ノズル２４、トラクタ装置２６、スリッタ２７、カット胴２８、圧着装置２９、スリッタ３２、スタッカ３０を順次設けてなるものであるが、ジグザグ状にではなく中紙片４５の表面側に左紙片４４及び右紙片４６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りするので、折り装置２２の具体的な構成は相違する。ここでは、便宜上、図１の符号と同一符号を用いて説明する。

【００３０】

まず、口座振替通知葉書用紙４１をトラクタ装置２６で連続方向に移送しながら、折り装置２２で中紙片４５の表面側に左紙片４４及び右紙片４６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りする際、圧を加えて接着する強接着可能な感圧性接着剤５９をノズル２４から噴射し、右紙片４６表面側における切り用ミシン目４７側の側端部に沿って線状に塗布する。なお、感圧性接着剤５９は、前記塗布部分と重なり合うべき左紙片５の裏面側の折り用ミシン目４２に沿った側端部に沿った部分に塗布してもよい。

【００３１】

この強接着可能な感圧性接着剤５９としては、第１の実施形態と同様に、一旦接着すると接着面を損傷しなければ剥離不能な感圧性接着剤を使用する。そして、ノズル２４の感圧性接着剤５９噴射動作は、エンコーダ２５からの用紙送り量検出信号に基づいて制御し、単片たる各口座振替通知葉書用紙４１を区画する各切り用ミシン目（図示せず、図２及び図３の切り用ミシン目１１参照）にかからないように行う。

【００３２】

図７に示すように、中紙片４５の表面側に左紙片４４及び右紙片４６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りした口座振替通知葉書用紙４１は、宛名情報５４、差出人情報５５と図示していない葉書表示及び剥離開始端指示表示を表出する一方、案内情報５１，５３、領収情報５２、通知情報５６を隠蔽して外部からは視認不能な状態とする。

【００３３】

口座振替通知葉書用紙１の移送は、トラクタ装置２６により移送孔４８を利用して、いわゆる片送りで行われるもので、折り重ね動作が終了して不要になった移送孔４８を設けたマージナル部４９は、スリッタ２７によって、折り用ミシン目４２の外側にある切り用ミシン目４７（図７に示すＱ２の位置）で切断除去される。

【００３４】

続いて、三つ折りした連続状態にある口座振替通知葉書用紙４１を、カット胴２８により各切り用ミシン目（図示せず）において切断して単片状態とし、さらに、上下二対の圧着ローラを備えた圧着装置２９により各感圧性接着剤５０，５９の接着条件である所定の圧を付与し、重ね合わせ面を感圧性接着剤５９の塗布部分は接着面を損傷しなければ剥離不能に、他の部分は剥離可能に接着する。

【００３５】

次いで、スリッタ３２により、折り用ミシン目４３の内側（図７に示すＱ１の位置）をスリットし、折り用ミシン目４３部分を除去する。これによって、口座振替通知葉書（図示せず）が作成され、口座振替通知葉書は順次スタッカ３０に堆積していく。

【００３６】

このようにして作成した口座振替通知葉書は、図５に示す上紙片４の幅方向が他の二紙片５，６よりも小さい口座振替通知葉書３１の構成と比較し、三紙片４４，４５，４６のうち左紙片４４の幅方向が他の二紙片４５，４６よりも若干小さい点で相違するほかは同一

構成であり、一般の葉書と同様に投函可能である。また、この口座振替通知葉書を受領後の使用方法は、上述した第１の実施形態と同様であるから、その説明は省略する。

【００３７】

続いて、図８及び図９に基づき本発明の第３の実施形態である中紙片に左紙片及び右紙片を順次折り重ねて口座振替通知葉書を作成する方法について説明する。はじめに、口座振替通知葉書とするための口座振替通知葉書用紙について説明する。図８及び図９に示すように、口座振替通知葉書８０を作成するための口座振替通知葉書用紙６１は、折り用ミシン目６２，６３を境として、Ｒ１での切断によって葉書大となるよう、幅方向が葉書大よりも若干大きく形成された左紙片６４、中紙片６５、右紙片６６を連接してなる。なお、中に折り込まれる前記左紙片６４は他の二紙片６５，６６よりも幅方向が若干小さくなっている。

【００３８】

また、右紙片６６の折り用ミシン目６３とは反対側の側端部には、切り用ミシン目６７を境にして等間隔に移送孔６８を穿設したマージナル部６９を設けている。そして、図示してはいないが、この口座振替通知葉書用紙６１は、マージナル部６９の延びる方向に切り用ミシン目を介して多数連接された連続状態にある。

【００３９】

図８で理解できるように、口座振替通知葉書用紙６１の表裏面には、全面的に、通常では接着せず所定の圧を加えると接着可能となり、接着後に剥離可能で、印字あるいは印刷が可能な感圧性接着剤７０を塗布している。この感圧性接着剤７０としては、上述した第１の実施形態で説明した感圧性接着剤１２と同一構成のものを使用することができる。

【００４０】

左紙片６４と中紙片６５の表面側は、互いに折り重ねられる重ね合わせ面で、左紙片６４の重ね合わせ面には次回口座振替の通知情報７１をあらかじめ印字し、中紙片６５の重ね合わせ面は領収証となって、口座振替日及び領収金額からなる領収情報７２をあらかじめ印字している。右紙片６６の表面側は、左紙片６４の裏面側に折り重ねられる重ね合わせ面で、この重ね合わせ面には各種の案内情報７３をあらかじめ印刷している。

【００４１】

一方、中紙片６５の裏面側は宛名情報７４をあらかじめ印字した折り重ねた時の表出面であり、右紙片６６の裏面側は差出人情報７５をあらかじめ印刷した折り重ねた時の表出面である。また、左紙片６４の裏面側は、右紙片６６の表面側に折り重ねられる重ね合わせ面で、この重ね合わせ面には各種の案内情報７６をあらかじめ印刷している。前記左紙片６４が葉書本体となるもので、その表面側の上端部には「郵便はがき」という葉書表示７７をあらかじめ印刷している。前記中紙片６５の葉書表示７７に対応する上端部は切り欠かれて、前記葉書表示７７を露出するとともに、剥離端となる前記折り用ミシン目６２端部側に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示７８をあらかじめ印刷している。また、前記右紙片６６の裏面側には、差出人表示７５の下に位置し、剥離端となる切り用ミシン目６７側端部に、矢印と「ここからゆっくりはがして下さい」という文からなる剥離開始端指示表示（図示せず）をあらかじめ印刷している。

【００４２】

次に、上述のように構成した連続状態にある口座振替通知葉書用紙６１から図１３に示す口座振替通知葉書８０を作成する方法を説明する。本実施形態で使用する作成装置は、図１の作成装置とほぼ同一であり、折り装置２２、ノズル２４、トラクタ装置２６、スリッタ２７、カット胴２８、圧着装置２９、スリッタ３２、スタッカ３０を順次設けてなるものであるが、ジグザグ状にではなく中紙片６５の表面側に左紙片６４及び右紙片６６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りするので、折り装置２２の具体的な構成は相違する。ここでは、第２の実施形態に関する説明と同様に、便宜上、図１の符号と同一符号を用いて説明する。

【００４３】

まず、口座振替通知葉書用紙６１をトラクタ装置２６で連続方向に移送しながら、折り装置２２で中紙片６５の表面側に左紙片６４及び右紙片６６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りする際、圧を加えて接着する強接着可能な感圧性接着剤８１（図８参照）をノズル２４から噴射し、左紙片６４表面側における折り用ミシン目６２とは反対側の側端部に沿って、線状に塗布する。なお、この塗布部分と重なり合うべき中紙片６５の表面側の折り用ミシン目６３に沿った側端部に感圧性接着剤８１を塗布してもよい。

【００４４】

この強接着可能な感圧性接着剤８１としては、第１の実施形態と同様に、一旦接着すると接着面を損傷しなければ剥離不能な感圧性接着剤を使用する。そして、ノズル２４の感圧性接着剤８１噴射動作は、エンコーダ２５からの用紙送り量検出信号に基づいて制御し、単片たる各口座振替通知葉書用紙６１を区画する各切り用ミシン目（図示せず、図２及び図３の切り用ミシン目１１参照）にかからないように行う。

【００４５】

図８に示すように、中紙片６５の表面側に左紙片６４及び右紙片６６の各表面側を順次折り重ねて巻き込み状に三つ折りした口座振替通知葉書用紙６１は、宛名情報７４、葉書表示７７、剥離開始端指示表示７８及び差出人情報７５を表出する一方、案内情報７３，７６、領収情報７２、通知情報７１を隠蔽して外部からは視認不能な状態とする。

【００４６】

口座振替通知葉書用紙６１の移送は、トラクタ装置２６により移送孔６８を利用して、いわゆる片送りで行われるもので、折り重ね動作が終了して不要になった移送孔６８を設けたマージナル部６９は、スリッタ２７によって、切り用ミシン目６７で切断除去される。なお、このマージナル部６９の切断除去は、後述のスリッタ３２による、折り用ミシン目６２の内側のスリット時に一緒に行ってもよい。

【００４７】

続いて、三つ折りした連続状態にある口座振替通知葉書用紙６１を、カット胴２８により各切り用ミシン目（図示せず）において切断して単片状態とし、さらに、上下二対の圧着ローラを備えた圧着装置２９により各感圧性接着剤７０，８１の接着条件である所定の圧を付与し、重ね合わせ面を感圧性接着剤８１の塗布部分は接着面を損傷しなければ剥離不能に、他の部分は剥離可能に接着する。次いで、スリッタ３２により折り用ミシン目６２の内側（図８に示すＲ１の位置）をスリットして、図９に示す口座振替通知葉書８０を作成し、口座振替通知葉書８０は順次スタッカ３０に堆積していく。

【００４８】

このようにして作成した口座振替通知葉書８０は、一般の葉書と同様に投函可能である。そして、この口座振替通知葉書８０を受領した宛名人は、剥離開始端指示表示７８にしたがい、左紙片６４と中紙片６５とを相対的に引き離すと、これら各紙片６４，６５の重ね合わせ接着面が剥離し、隠蔽されていた領収情報７２と通知情報７１が露出して視認可能な状態となる。また、右紙片６６の剥離開始端指示表示にしたがい、右紙片６６と左紙片６４とを相対的に引き離すと、これら各紙片６６，６４の重ね合わせ接着面が剥離し、隠蔽されていた案内情報７３，７６が露出して視認可能な状態となる。

【００４９】

この時、左紙片６４と中紙片６５の剥離開始端と反対側の端部は感圧性接着剤８１で強接着し、中紙片６５と右紙片６６とは折り用ミシン目６３で連接しているので、これら三紙片６４，６５，６６は分離することなく、冊子状に見開くことが可能である（図６参照）。

【００５０】

図１０は第４の実施形態を示すもので、上述した第３の実施形態における強接着する感圧性接着剤８１の設置位置に関する変化例であり、その他の構成及び作成方法は第３の実施形態と同一であるから、対応する構成要素に同一符号を付して説明する。すなわち、右紙片６６の表面側の折り用ミシン目６３に沿った部分と、この部分に重なり合うべき左紙片６４の裏面側の折り用ミシン目６２とは反対側の側端部に沿った部分との少なくとも一方

に、圧を加えて接着する強接着可能な感圧性接着剤８１を線状に設ける。

【００５１】

そして、この口座振替通知葉書用紙６１は、上述した第３の実施形態と同様に、折り用ミシン目６２で中紙片６５の表面側に左紙片６４の表面側を重ね合わせ、折り用ミシン目６３で左紙片６４の裏面側に右紙片６６の表面側を重ね合わせて三つ折りし、切り用ミシン目６７でマージナル部６９を切断除去し、単片化したうえ、各重ね合わせ面を圧着し、折り用ミシン目６２の内側（図１０に示すＲ２の位置）でスリットして、口座振替通知葉書とするものである。なお、前記マージナル部６９の切断除去は、折り用ミシン目６２の内側位置Ｒ２をスリットする時に一緒に行ってもよい。

【００５２】

本実施形態では、左紙片６４と右紙片６６の剥離開始端と反対側の端部は感圧性接着剤８１で強接着し、中紙片６５と右紙片６６とは折り用ミシン目６３で連接しているので、これら三紙片６４，６５，６６は分離することなく、冊子状に見開くことが可能である（図６参照）。

【００５３】

なお、本発明は上述した各実施形態に限定されるものではなく、例えば、ジグザグ状の三つ折りで三紙片の大きさが等しい場合には、マージナル部９，４９，６９を両側に設けてもよい。また、剥離可能に接着するための感圧性接着剤１２，５０，７０は、口座振替通知葉書用紙１，４１，６１の表裏全面に設けずに、重ね合わせ面にのみ設けてもよく、この場合には重ね合わせ面の双方に限らず、いずれか一方のみに設けてもよい。さらに、強接着する接着剤は、感圧性接着剤２３，５９，８１のみならず、エマルジョン型やホットメルト型等の接着剤を用いてもよいが、剥離可能な接着剤と同型の接着剤を選択することが望ましい。またさらに、この強接着する感圧性接着剤２３，５９，８１は、線状のみならず点状に設けてもよい。

【００５４】

また、葉書表示７７を露出するための切り欠きは、中紙片６５の対応する部分に設けるほか、第１の実施形態の葉書表示２０を露出する構成と同じように、上端部全長にわたって形成してもよい。さらにまた、本発明を口座振替通知葉書３１，８０とするための口座振替通知葉書用紙１，４１，６１以外にも、情報を表示した重ね合わせ面を持つ各種情報所持体を作成するための接着用紙に適用できることはいうまでもない。

【００５５】

【発明の効果】

以上説明したところで明らかなように、本発明によれば、三つ折り時に強接着剤を設けるので、この強接着剤を設けていない接着用紙面は平坦状態にあり、凹凸がないので接着用紙を積層状態で保管する場合に、傾くことがなく安定状態で保管可能であり、また、前処理の印字動作にも悪影響を及ぼさないという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図１】第１実施形態の口座振替通知葉書を作成する作成装置の概略的な側面図。

【図２】同じく連続状態にある葉書用紙の表面側の概略的な平面図。

【図３】同じく裏面側の概略的な平面図。

【図４】同じく重ね合わせ状態の概略的な断面図。

【図５】同じく作成した口座振替通知葉書の宛名面側の概略的な斜視図。

【図６】同じく重ね合わせ面を剥離した口座振替通知葉書の概略的な斜視図。

【図７】第２実施形態の口座振替通知葉書用紙の概略的な断面図。

【図８】第３実施形態の口座振替通知葉書用紙の重ね合わせ状態の概略的な断面図。

【図９】同じく作成した口座振替通知葉書の宛名面側の概略的な斜視図。

【図１０】第４実施形態の口座振替通知葉書用紙の重ね合わせ状態の概略的な断面図。

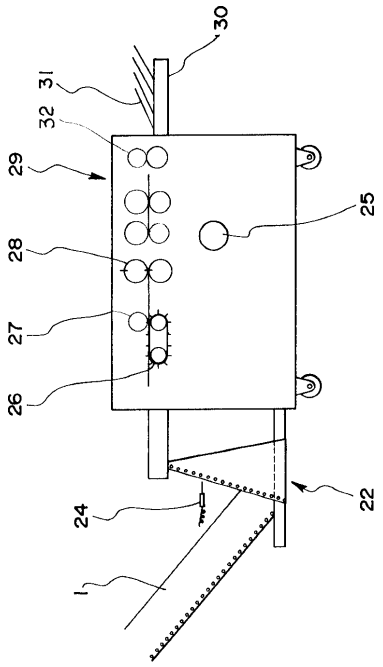
【符号の説明】

１，４１，６１　　口座振替通知葉書用紙

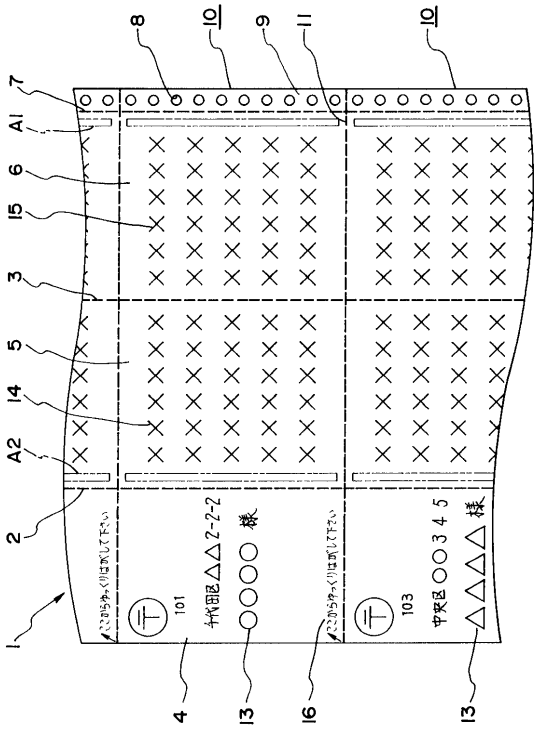
２，３，４２，４３，６２，６３　　折り用ミシン目

４，４４，６４　　左紙片
５，４５，６５　　中紙片
６，４６，６６　　右紙片
８，４８，６８　　移送孔
９，４９，６９　　マージナル部
１０　　単位用紙
１２，５０，７０　　感圧性接着剤
１３，５４，７４　　宛名情報
１４，１５，５１，５９，７３，７６　　案内情報
１６，２１，５３，７８　　剥離開始端指示表示
１７，５５，７５　　差出人情報
１８，５６，７１　　通知情報
１９，５２，７２　　領収情報
２２　　折り装置
２３，５９，８１　　感圧性接着剤
２４　　ノズル
２６　　トラクタ装置
２７，３２　　スリッタ
２８　　カット胴
２９　　圧着装置
３０　　スタッカ
３１，８０　　口座通知葉書

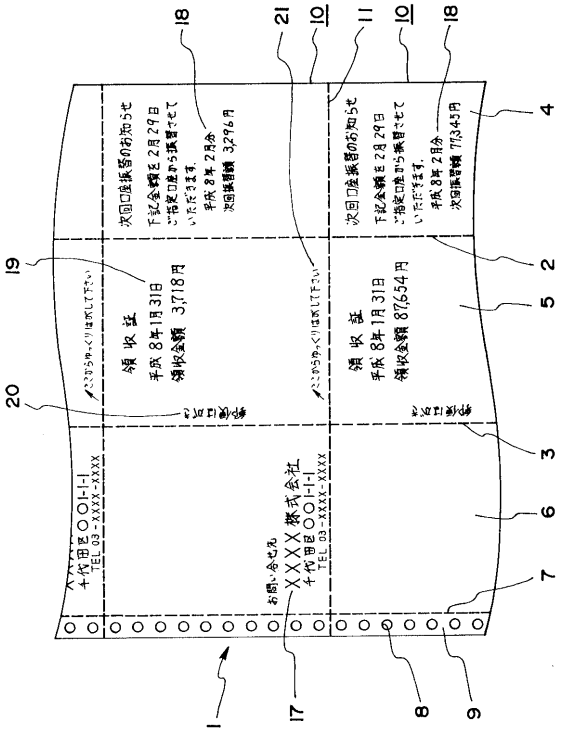
【図１】



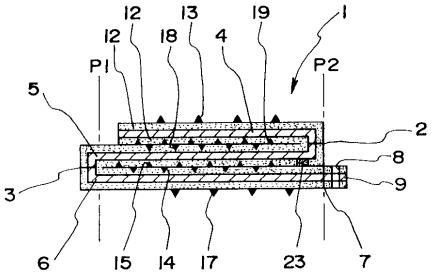
【図２】



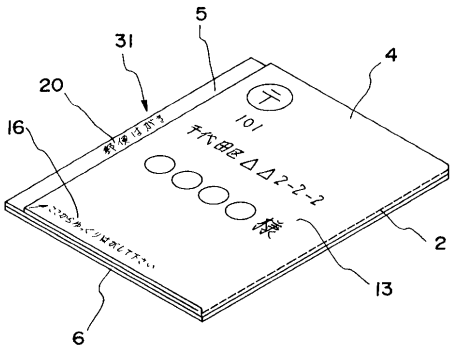
【図３】



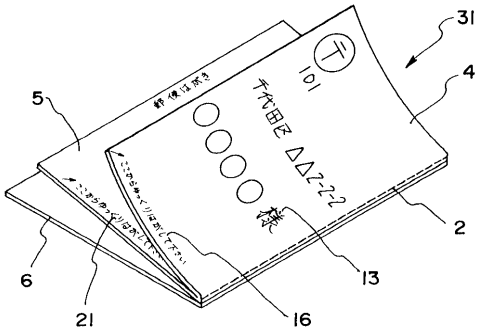
【図４】



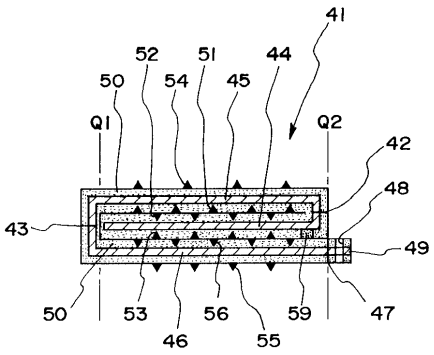
【図５】



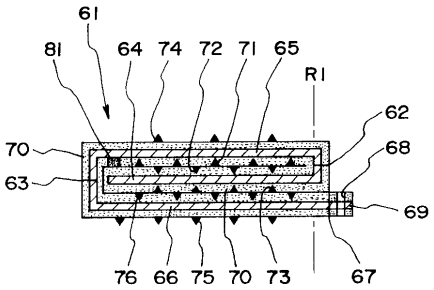
【図６】



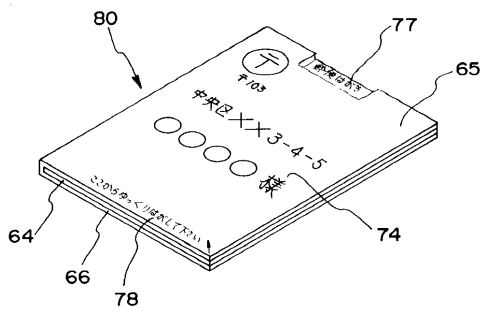
【図７】



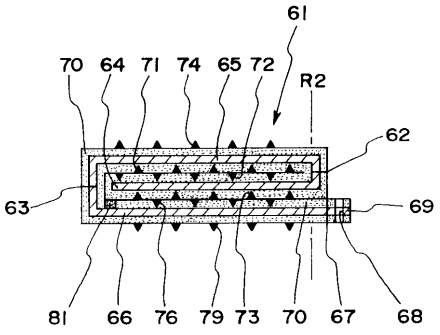
【図８】



【図９】


80
77
65
64
66
78
74

【図１０】


61
70
64
71
74
65
72
R2
62
63
69
81
66
76
79
73
70
67
68

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平８－１１４６９（ＪＰ，Ａ）
実開平４－４０９７５（ＪＰ，Ｕ）
実開平１－１４５４７５（ＪＰ，Ｕ）
特開平４－５９３９６（ＪＰ，Ａ）
特開平２－１７８０９４（ＪＰ，Ａ）
実開昭５６－８４８１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
B42D 15/02
B42D 15/08
B65D 27/00